

北海道における国道路線に着目した「道の駅」の空間分布に関する研究

室蘭工業大学大学院 学生員 ○太田 真
 専修大学北海道短大 正 員 榎谷 有三
 室蘭工業大学工学部 正 員 田村 亨
 室蘭工業大学工学部 フェロー 斎藤 和夫

1. はじめに

「道の駅」は平成5年度から登録案内制度¹⁾が施行され、北海道における登録状況は70ヶ所(平成13年8月現在)に至っており全国(649ヶ所)の約10%を占めている。

ところで、「道の駅」は地域が自主的に整備するものであり、施設配置についても基本的に地域の自主性を尊重すべきである。しかしその結果、ネットワークとして考えると配置の偏在問題が生じていると考えられる(図-1参照)。そのため、休憩施設としての利用しやすさ等の観点から広域的な視点での構想づくりが望まれる。

そこで本研究は、北海道における各国道路線に着目して「道の駅」空間分布の基礎的な分析を行うことを目的とする。

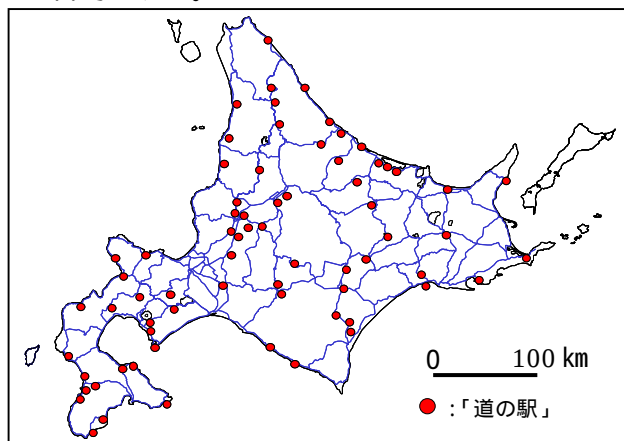


図-1 「道の駅」の空間分布

2. 各国道路線における「道の駅」分布状況

「道の駅」の線的な分布状況を捉えるため、各国道路線に着目した「道の駅」分布を見てみる。

北海道には全48の国道路線が存在する。しかし、航路(R279・R280・R338)、交通不能区間(R393・R452)、さらに事業区間(R450)が存在するため、これら6路線は本研究の対象から除外した。

これら42路線に分布している「道の駅」は延べ74駅である。これは国道重複路線沿いに設置している「道の駅」が6駅あるためである。また、札幌市に設置されている『道路情報館』は、「道の駅」の基本コンセプトに属すると考えられるため、本研究の対象に含めている。さらに、国道沿線に設置されていない「道の駅」は3駅あるが、これらは本研究の対象から除外した。よって、延べ数は74駅となる。

ここで、対象42路線の各国道沿線に設置されている「道の駅」数及び路線長を図-2に示す。

図-2によると、各国道路線で最も多い「道の駅」分布数は、R275(札幌～雨竜～美深～浜頓別)で7駅であった。次いで、R229(日本海沿岸：小樽～神恵内～江差)、R238(オホーツク海沿岸：網走～紋別～稚内)は各6駅である。また、全体として1路線における平均分布数は約1.8駅、平均路線長は約154kmであり、分布が見られない路線は合計12路線存在した。

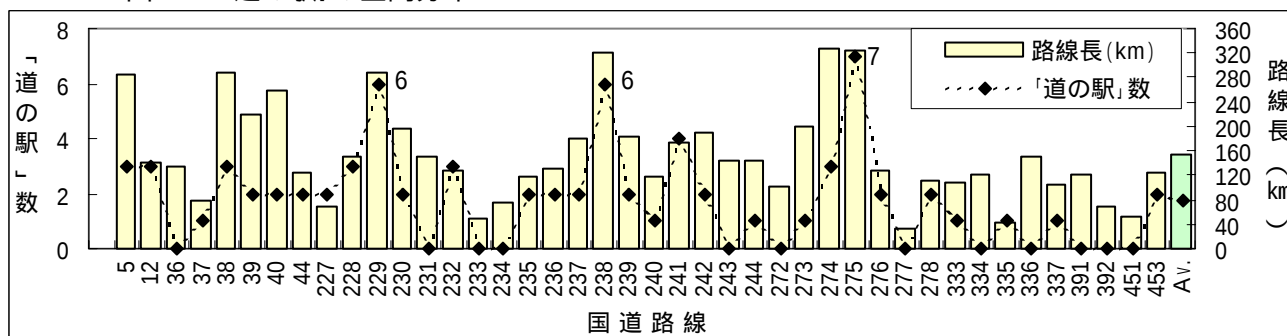


図-2 各国道路線の「道の駅」分布数と路線長

キーワード：北海道「道の駅」、国道路線、空間分布

連絡先：〒050-8585 室蘭市水元町27番1号、0143-46-5245、Fax0143-46-5246

3. 距離間隔分布

図 - 3 は、各国道路線における距離間隔の概念図である。例えば、「X 国道」(A B 間)と「Y 国道」(B C 間)は、「道の駅」の有無を示している。また、「ア」は国道起点と「道の駅」間、「イ」は「道の駅」と「道の駅」間、「ウ」は「道の駅」と国道終点間、「エ」は国道起終点間を示している。

以上より距離間隔の分布状況を分析するため、距離間隔の計測方法は電子地図²⁾と道路時刻表³⁾を用いた。

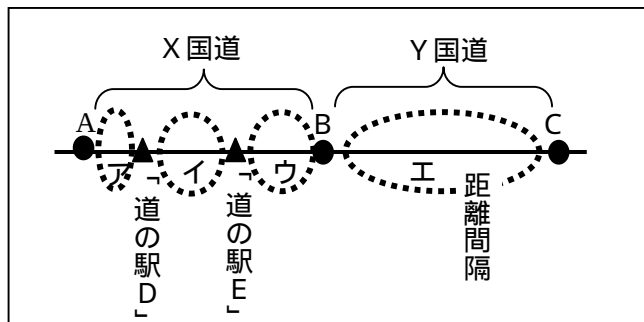


図 - 3 距離間隔分布の概念図

これらの結果から、下記の「起点、「道の駅」、終点」距離間隔分布、及び「道の駅」距離間隔のみの分布を示す。なお、図 - 4、5 の X 軸項目の「0 km ~ 20 km」は「0 km 以上 20 km 未満」を表し、「160 km ~」は「160 km 以上」を表している。

(a) 「起点、「道の駅」、終点」距離間隔分布

図 - 4 は、概念図（図 - 3 参照）で示した距離間隔「ア」「イ」「ウ」「エ」の全てを抽出した結果である。これらの距離間隔は、全 42 路線中合計 116 ケ所存在した。これらの平均距離間隔は 55.7 km である。また、「20 km 以上 40 km 未満」（30 ケ所）の構成比は 25.9% をピークに減少しているが、「140 km 以上」（8 ケ所）では約 7.0% を占めている。

(b) 「道の駅」距離間隔のみの分布

図 - 5 は、概念図（図 - 3 参照）で示した「道の駅」距離間隔の「イ」を抽出した結果である。この距離間隔は、「道の駅」が設置されている全 30 路線中合計 44 ケ所であった。これらの平均距離間隔は 54.2 km である。また、最長距離間隔は、『南ふらの』と『しらぬか恋問』間の 172.8 km、次いで『樹海ロード日高』と『足寄湖』間は 146.8 km であった。

(a) 及び (b) は、ほぼ同等の距離間隔である。また、およそ 55 km 毎に国道の起終点もしくは「道の駅」が存在していると言える。

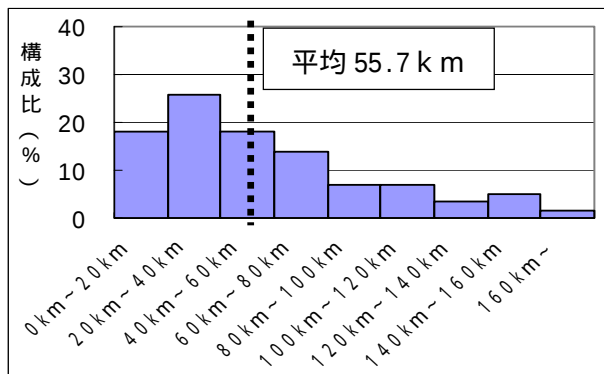


図 - 4 「起点、「道の駅」、終点」距離間隔分布

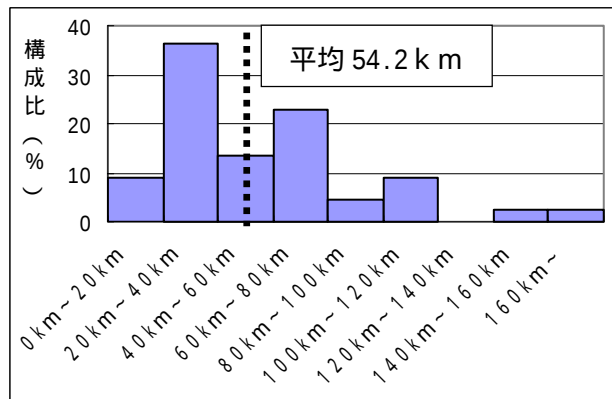


図 - 5 「道の駅」距離間隔のみの分布

4. おわりに

本研究の主な成果は以下の通りである。

各国道路線の「道の駅」分布数を明らかにした。

対象 42 国道路線において「道の駅」が設置されていない路線は、12 路線であることがわかった。

2 つに大別した距離間隔の概念をもとに平均距離間隔を明らかにした。

今後の課題として、道路利用者の移動範囲は各国道路線に留まるとは考えにくいとため、空間移動を考慮したネットワークの構築が必要である。また、「道の駅」空白地帯における対応として、道路利用者の連続運転時間、地形条件や路線利用状況、季節条件等を考慮して施設配置を分析する。しかし、全てを「道の駅」整備する必要はないが、このとき民間施設等との関係に十分に配慮する必要がある。

【参考文献】

- 1) 財団法人道路保全技術センター：道の駅の本、1998
- 2) ZENRIN 電子地図
- 3) 道路時刻表研究会：道路時刻表 2001 ~ 2002